

いわみざわ アートアカデミー 成果報告書



主催 北海道岩見沢市

令和4年度 文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」



Contents

ごあいさつ	1
実施概要	2
創作体験・創作学習会	3
創作ワークショップ・芸術鑑賞会	4
展示技術・実践学習会	5
北海道教育委員会との連携	6
まとめ	7
アンケート	8
資料	14

いわみざわ

岩見沢市では、障がいのある人もない人もともに自分らしく暮らす共生社会の実現に向け、障がいのある人の創作活動の支援、作品の鑑賞機会の提供などに取り組んでいます。

令和3年度に、障がいのある人の生涯を通じての学びとしての芸術文化に触れてもらうことを目的に「いわみざわアートアカデミー」を開催し、今年度で2回目の開催となりました。

前回に引き続き、学校卒業後の障がいのある人が北海道教育大学岩見沢校の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会を開催するとともに、今回は、自身も障がいを抱えながら創作活動に取り組む画家の今恵美子さんを講師にお招きし、作品を通じた相互交流のワークショップを開催しました。ワークショップでは、自分の作品に込めた想いを伝えあう時間をつくり、芸術文化を通じた人とのコミュニケーションの場としました。

障がいのある人が講師となることで、障がいのある人が芸術文化を通して自己実現を図り、芸術を教わる側から教える側になることで地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指すという目標に向かって、一歩前進できたと考えています。

本報告書は、ご覧いただく方が障がいのある人の生涯学習としての芸術文化の可能性を感じていただけるよう、本事業の成果をご報告するとともに、障がいのある人の学びをさらに活発にしていくため、アンケートの実施結果などから、今後の取組みの課題などを明確にしていきたいと思い、作成いたしました。微力ながら、本書の内容が多くの方にとって参考となれば幸いです。

結びとなりますが、いわみざわアートアカデミーの開催にご協力いただきましたみなさまに心から感謝を申し上げます。

2023年3月 北海道岩見沢市

実施概要

実施目的

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

プログラム

●芸術鑑賞学習会

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

●創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。
障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

●展示技術学習会

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

●展示実践学習会

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。
展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場にもする。

参加者数

33名（定員20名）

連携協議会

岩見沢市健康福祉部福祉課
岩見沢市教育部生涯学習・文化・スポーツ振興課
北海道教育大学岩見沢校
北海道アールブリュットネットワーク協議会
岩見沢ハート&アート実行委員会
北海道社会福祉事業団福祉村
障がい当事者

事務局：岩見沢市健康福祉部福祉課



創作体験・創作学習会

創作体験・創作学習会は、毎回、テーマを設定して講座を行い、受講者に新しい発見があるように工夫しました。

サインペン・パステルなどのペン系画材やたくさんの種類がある絵の具系画材の紹介・技法に関する講義に加え、絵を描くのが苦手な人でも簡単に創作ができ

るように「糸引き絵」の体験もしました。画材のことなどは、知的障がいのある人にも分かりやすく伝えられるよう写真を活用した資料で解説しました。

専門的な道具を使う油彩画も、各テーブルに学生がついて丁寧に説明し、参加者がチャレンジしやすいようにしました。

〈第1回〉2022年9月28日(水)

さまざまな画材に触れる

〈第2回〉2022年10月12日(水)

創作の多様性を体験する

〈第3回〉2022年10月26日(水)

表現を深める

講師：北海道教育大学岩見沢校
アートマネジメント研究室
三橋純予教授、
研究員の皆様

・油彩絵の具を用いた技法



○重ね塗り
絵の具を油と少し混ぜ、それをペインティングナイフでキャンバスに乗せていく技法
とにかく絵の具をたくさん乗せる事がポイント
絵具を立体的に乗せられるのは油彩画の特権！

講義で使用したスライド

学生が画材を使う様子などを自分で写真に撮り、どのように伝えたら障がいのある人にとって分かりやすいか、考えながら資料を手作りしました。

講義の様子

知的障がいのある人にも分かりやすいように丁寧な説明を心がけました。ろうあ者もご参加いただいたので、手話通訳者を配置していますが、今回は学生も事前に手話を勉強し、自己紹介を手話で行いました。(左) 三橋教授の挨拶(右)



講座の最初に、画材のことなどを解説しました。専門的なこともできるだけ分かりやすく説明するよう心がけました。(左) 各テーブルに学生がつき参加者をサポートしながら創作を行いました。専門的な道具を使う油絵も丁寧に説明しました。(中央) 画材を持つことが苦手な人でも創作が楽しめるように「糸引き絵」を盛り込みました。(右)

創作ワークショップ・芸術鑑賞会

自身も精神に障がいを抱えながら創作活動をしている今恵美子さんが講師となり、自分の体験談や創作にかける想いを語り、会場みんなが同じテーマで創作するワークショップを開催しました。

また、参加者が創作した作品に込めた想いを話し、今

恵美子さんが見どころやポイント等を解説し、みんなでお互いの作品を鑑賞しました。

いわみざわアートアカデミー会場の近くのギャラリーで開催していた今恵美子さんの個展に参加者が来場し、本人の解説のもと作品を鑑賞しました。

〈第4回〉2022年11月9日(水)

作品で想いを伝えあう

講師：今恵美子様(画家)



ワークショップの様子

「自由に塗った色から植物のつるを伸ばし、その先に自分が好きなものを描く」というテーマで創作しました。

作品発表の様子

参加者が自分の作品に込めた想いを発表し、今恵美子さんが見どころなどを解説しました。緊張した様子の方もいましたが、みなさん堂々と自分の絵のことを話してくれました。他の人の絵をみて「もっと描きたくなった」という人もいました。



アートアカデミー会場の近くにあるギャラリーで開催中の今恵美子さんの個展に参加者が訪れ、ご本人の解説を聞きながら、作品を鑑賞しました。

展示技術・実践学習会

創作体験・創作学習会で創作した作品を、北海道教育大学岩見沢校キャンパス内の「森の岩ギャラリー」に展示しました。一般的な額装の他に、アクリル板で作品を挟む方法、クリップで作品を連結する方法など、作品の見せ方も工夫し、展示技術の習得を図りました。設営・運営スタッフとして学生も参加し、作品のレイアウトなどは現地で相談しながら調整しました。

また、今恵美子さんのワークショップで創作した作品とともに、ワークショップ当日の様子をスライドショーで流しました。



フライヤーデザインには参加者の作品を採用

展示会名: いわみざわアートアカデミー
「Our Life is Our Art」

会 期: 2022年12月1日(木)~12月7日(水)
会 場: 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」
出展数等: 25名、110作品



北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

大学の「キャンパス活性化リノベーション事業」の一環として、倉庫として使われていた古い浄化槽設備を改修したギャラリー(令和3年1月完成)



参加者ごとにひとつの壁面を割り当て、自分の作品がまとめて展示されるようにレイアウトしました。

今恵美子さんのワークショップでの作品は特設コーナーを用意して展示しました。



北海道教育委員会との連携

「令和4年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道」

北海道教育委員会様が実施する「令和4年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道」におけるパネルディスカッションの中で「いわみざわアートアカデミー」の取組みを紹介し、本事業の成果の普及を図りました。

日時：令和5年2月4日(土) 12:40～13:40

概要：令和4年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in北海道
第5分科会「行政の世界」

発表：岩見沢市健康福祉部福祉課 主幹 山田努
北海道教育大学岩見沢校 三橋純予教授



アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会
9月28日 さまざまな画材に触れる
10月12日 創作の多様性を体験する
10月26日 表現を深める

毎回、テーマを設定して講座を行い、受講者に新しい発見があるように工夫しました。

北海道教育大学岩見沢校
アートマネジメント美術研究室による講義
画材のことなど、知的障がいのある人にも分かりやすく伝えられるよう写真を活用した資料で解説

専門的な道具を使う油絵も、各テーブルに学生がついて丁寧に説明し、チャレンジしやすいようにしました。
はじめは油絵具をさわる人ばかりでしたが、「絵の具を盛り付ける感覚が楽しい」と一番人気の画材となりました。



障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

【アンケートでのご意見】
「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「レベルが自分には高かった」、「もっと創作時間が欲しい」との意見も。
前年度よりも創作の時間は長めに設定したが、障がいの特性から描き始めるまでに時間がかかる人もおり、タイムテーブルどおり進まないこともあった。障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、休憩を多くとったり、個別の支援をしっかりとつけるといった工夫が必要。

【障がいのある人が学校卒業後に学びを深めるためにはどんなことが大切か？】
・高いレベルの勉強ができるように、場所とか機会を増やしたらよいと思う。
・一般向けのイベントでも要望に応じて手話通訳を手配するなど、合理的配慮により障がい者を排除しない工夫があるといいと思います。
・人とのふれあひが必要です。
・単会でもこのような機会があることを大変うれしく思います（原文）。

いわみざわアートアカデミーの開催の様子をダイジェスト映像にし、岩見沢市公式YouTubeに掲載しました。



学校卒業後の障がい者の生涯学習としての芸術文化

1 誰もが楽しめる学びとしての芸術文化

アートアカデミーは、市が共生社会の実現を目指して取り組んでいる障がい者の文化芸術活動の支援を「障がいのある人の生涯を通じての学び」という視点で見つめなおし、芸術文化とスポーツに特化する北海道教育大学岩見沢校との連携のもと、北海道アールブリュットネットワーク協議会や障がい福祉事業所の方々など、関係各位のご協力をいただきながら開催しました。

昨年度に引き続き2回目の開催となり、今回も幅広い年齢層の方々、身体・知的・精神それぞれの障がい種別の方々にご参加いただきました。「障がいのある人の生涯学習」としての「芸術文化」は、障がいの種別に関わらず、誰もが楽しめる可能性があると考えています。

今回は、筆や画材を持つことができない、または苦手な方にも創作を楽しんでもらいたいという学生のアイデアから、「糸引き絵」を創作の時間に盛り込みました。絵の具に漬けた糸を紙に挟んで引き抜くだけという簡単な方法ですが、参加者が偶然にできる模様などを楽しんでいる様子が印象的でした。「障がいがあるからできない」ではなく、「障がいの有無に関わらずできるように工夫する」ということを、福祉の経験がない学生が発案したことに、この事業の着実な進歩を感じています。課題としては、昨年度同様、視覚に障がいのある人の参加はありませんでした。障がいの種別によって参加の機会が制限されることのないよう、今後のプログラムの検討を進めていきたいと考えています。

2 障がいのある人が参加しやすい学びの場とするために

アンケートでは、ほとんどの参加者が「アートアカデミーに参加して楽しかった」、「芸術文化を学ぶことについて関心が高まった」と回答しました。昨年度よりも講座の時間を延ばしたため、時間や回数は「ちょうどいい」と答えた人が多くなりましたが、「もっと創作の時間が欲しい」という声も寄せられています。

多様な障がい者が参加しやすい学びの場とするためには、コースをいくつかに分けて、自分の参加しやすい回数・時間・内容を選べるようにするという方法がありますが、インクルージョンの観点からは、「出入り自由・自分が参加したいところだけ参加できる講座」とすることも有効な方法ではないかと考えています。今回は、休憩時間を長めにとったり、講座の途中で別の技法を教えたりするなど、飽きないで受講できる工夫を凝らし、途中で退席する参加者はいませんでした。

一方で、経済界の方からは「仕事に就いている障がい者は平日だと参加できない」、「生涯学習するのであれば会計の知識や外国語などの仕事に役立つ知識や

技能も身につけて欲しい」という声も寄せられています。全てのニーズに応えるのは難しい側面もありますが、開催日時の調整など、障がいのある人を雇用する側にもこの取組みの意義を理解していただくため、改善できる点は改善する必要があると感じています。

また、前回のアンケートで、「(学びの場があることを)知らずに過ごす人も多いので、積極的な情報発信や情報交換が必要」との意見がありました。「待ちの姿勢」の人に情報を届けるには、単にホームページやSNSで情報発信を行うだけではなく、関係者のネットワークを活かし、アウトリーチの視点で障がい者に情報を届けることが必要となります。新型コロナウイルス感染症の影響により、障がい福祉事業所や高等養護学校等への立ち入りが制限されていたため、今回は「出前講座」は実現できませんでしたが、感染症の動向を見ながらアウトリーチの手法も検討していきたいと考えています。

3 実践研究の今後の展望

いわみざわアートアカデミーは、昨年度に引き続き2回目となりましたが、依然として新型コロナウイルスの影響を受ける中での開催となりました。感染対策のため、参加したくても会場に来ることができない方がおり、また障がい福祉事業所等への「出前講座」は、施設への立ち入り制限のため実施を見送りました。予定どおり進まないこともありましたが、継続的な取組みの積み重ねが重要と考えています。

今回、講師として2回目の参加となる学生も多かったですが、「障がいのある人との接し方をきちんと勉強してから講師をしたい」との声があり、北海道社会福祉事業団福祉村の支援員の方と手話通訳者に講師をしてもらい、障がいへの理解を深めてから講座を開催しました。

スタッフの配置を固定したため、参加者からも「毎回同じ学生さんがついてくれたので緊張しなくてよかった」との声があり、顔が見える関係を築いて開催したことが、参加率の向上に良い効果があったものと考えています。

また、地道なこのような取組みの積み重ねが、障がいへの理解促進と障がい者の学びの場づくりにつながっていくものと思います。

今後においても、大学や関係機関とのつながりをさらに広げていきながら、芸術文化をテーマに障がいのある人が参加しやすいプログラムの研究を重ね、熟度を高めていきたいと考えます。

結びとなりますが、障がい者の生涯学習を推進しようとする方々にとって本報告書の内容が参考になれば幸いです。

いわみざわ
アートアカデミー
アンケート

いわみざわ アートアカデミー 参加者アンケート

●年齢

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
1	0	1	7	8	3	0	20

●性別

男	女	無回答
9	11	0

●アートアカデミーを何で知りましたか？

チラシ	メール	新聞	HP
4	0	0	0

※その他回答内容:市役所

友人知人	その他	無回答
7	4	5

●アートアカデミーに参加してどのように感じましたか？

	良かった		悪かった		不参加
第1回	6	3	0	0	10
第2回	11	2	0	0	6
第3回	9	4	0	0	6
第4回	10	1	0	0	8

(自由記載)※原文まま

- 初日だったので何を描いていいのかと悩んでしまった。
- すごく良かった。
- 分からなかったけど良かった。

●講座の回数や時間について。

回数	多い	少ない	ちょうどいい	無回答
	1	5	12	2

時間	長い	短い	ちょうどいい	無回答
	2	6	11	1

(自由記載)※原文まま

- 4日目のようなワークショップだと会話もしながら楽しめた。
- 時間通りに進んで欲しい。
- 福祉村では一日の参加だったが、個人的には全部参加したかった。
- 福祉村では一人一回の参加だったが、個人的にもできるだけ多く参加したかった。
- ダウン症の家族は描き始めるのに時間がかかるので3時間あって良かった。
2時間だったら足りなかった。

●(自由記載)講師や講座の内容について

講師について

- (4回目ワークショップ講師)今 恵美子さんと楽しく過ごせて良かったです。
- よい
- 丁寧に教えてくれて良かった。
- 優しく、丁寧に教えてくれた。
- わかりやすくて良かった。
- 優しく教えてくれて丁寧にわかりやすかった。
- ワークショップの前に講師の作品をもっと見たかった。

講座の内容について

- もっと創作の時間が欲しい
- レベルが自分には少し高かったと思う。
- 創作時間を長くとりたかった。
- わかりやすくて良かった。
- 良かった。面白かった。楽しかった。
- もっと創作の時間がほしい。

●アートアカデミーに参加して、芸術文化を学ぶことについて 関心が高まりましたか。

高まった		変わらない	無回答
15	3	1	0
			1

●障がいのある人が学校卒業後の学びを深めるためにはどんなことが大切だと思いますか。

- 単会でもこのような機会があることを大変うれしく思います。
- 自分のやりたいことをやればよいと思う。
- わからない
- 楽しかったし絵が大好きになった。
- 人とのふれあいが必要です。
- 高いレベルの勉強が出来る様に、場所とか機会を増やしたらよいと思う。
- 学びの機会がもっと増えたら良いと思う。
- 特に絵が好きです。学べる機会がもっと多くあれば良いと思います。
- 一般向けのイベントでも要望に応じて手話通訳を手配するなど、合理的配慮により、障がい者を排除しない工夫があるといいと思います。

●全体的な感想を聞かせてください。

- 3回、同じ学生さんがついてくれて緊張なくて良かったです。全4回楽しく描かせていただきありがとうございます。
- 手話や筆談でコミュニケーションが出来て良かったです。これからも続けていきたいです。
- とにかく短かった。学生さんに教えてもらいたかった。
- もっとアカデミーに参加したい。絵を学びたい。上手に絵を描きたい。
- 楽しかった。
- とても楽しかったです!ありがとうございました!!
- 参加できて満足でした。
- 楽しかった。ありがとうございました。
- 楽しかった。また参加したい。油絵をまたやりたい。
- 糸引きの描き方が良く、面白かった。色々な画材もあって興味がわいた。来年も是非参加したい。
- とても楽しかった。来年も参加したい。多くたくさんの色を使うことを薦められて勉強になった。糸引きはやってみなかったけど参考になった。他の参加者の作品を多くたくさん観ることが出来て参考になった。
- スタッフさんや学生さんの対応で、無意識に障害者を下に見ているように感じる人もいました。子どもに接するような態度だなと感じる場面もありました。まずは対等に接して欲しいです。その上で、必要な配慮は障害種によって全く異なりますから、障害者の施設の方など対応に慣れている方を運営チームに加えるといいと思いました。今回の機会をいただけたのはとても良かったです。ありがとうございました。

●性別

男	女	無回答	計
18	35	1	54

●年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	計
3	15	6	7	13	9	1	54

●職業

会社員・役員	公務員	自営業	芸術系	福祉系	学生	その他
6	2	0	0	15	14	14

●どこから来ましたか。

市内	道内	道外
45	9	0

●これまでに障がいのある人が創作した作品をみたことがありますか。

ない	ある
44	10

岩見沢アールブリュットギャラリー、岩見沢ハート&アート展、森の岩ギャラリー（昨年も来ました）、イベントホール赤レンガ、こくわの作品展等、地元（香川）の夏祭り、札幌市内のギャラリー、地元の図書館、発達支援施設、松山市

●本展覧会の感想

とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった	無回答
40	12	0	0	2

●ご意見・ご感想

作品数も多く見ごたえがありました。

「作品で思いを伝え合う」という1つのテーマで行われたワークショップがとても面白かったです。参加者を分けへだてしないやり方が新鮮でした。様々な表現をみることができ楽しかったです。描いた人の背景についても考えてしまいました。どうもありがとうございました！

たいへんすばらしかったですね！

たくさんの作品が個性豊かで見えて楽しかったです。

カラフルな空間に惹かれました！

会場のレイアウトが楽しい。

色々な形を書き込むことがいいあじとなっているように素人ながら感じました。

造形上の繊細な技巧や多様性、空間をも含めた作品づくりに大きな価値があるのだと思いました。

一般には稚拙なイメージを持たれる方が多いように思いますが、それ以上に多様な造形の表現が

あることを実感しました。また、造形的なイメージから、作者であるなんらかの障害特性を持った方がどのような思いや気持ちを込めたのかに鑑賞しながら思いを馳せてみていろいろな解釈があつてとても面白いと思いました。

筆で描かれた線や絵の具のにじみが別の意味を持って存在している感じがして、ずっと観てしまいます。時間がある時にゆっくり観たいです。色が鮮やかですごく元気もらいました。

全部上手でした。みてびっくり。

色使いがきれいな作品もあった。

想像力がたくましくて良かった。

自分の作品が立派にかざられていてうれしくなりました。ありがとうございます。

夢のある絵で気持ちがおだやかになりますね。

全部とても良かったです。また見に来たいです。

これからどんな作品を作るか?ヒントにつながっていけるかと思います。また参加したいので声をかけてくれるとうれしいと思います。ありがとうございます。

いい作品で良かった。

油彩をみてやってみたくなりました。

参考になった。

じょうずによかったこと。わたしもいわみざわアートアカデミーやってみたいです。

私の会社の利用者さんにも色んなものを使って絵を描いてほしいと思いました。

楽しかったです。

いるかよかった。

良いてらんかいで私もこういう作品を作りたいです。

来て良かった。

いわみざわ
アートアカデミー
資料集

◆障害者が美術学ぶアカデミー開講【岩見沢】障害のある人が美術表現の技法などを学ぶ学習会「いわみざわアートアカデミー」が28日に、市生涯学習センターいわなび(4西1)で開講する。21日まで参加者を募集している。市の主催。道教大岩見沢校で美術を学ぶ学生らが講師を担当し、水彩や油彩、クレヨンなど画材によって異なる表現方法などを楽しくながら学ぶ。

学習会は28日、10月12日、同26日、11月9日、11月16日、11月23日、11月30日、12月7日、12月14日、12月21日、12月28日の計12回、午後1時半～4時半。無料。定員各20人。問い合わせは市福祉課、電話0126・23・4111(内線1221)へ。

©北海道新聞社

油彩やちぎり絵に挑戦

岩見沢 障害者が学ぶ「アートアカデミー」



油彩を体験するいわみざわアートアカデミーの参加者

【岩見沢】障害のある人「ミ」が12日、市生涯学習が美術表現を学ぶ市主催の「いわみざわアートアカデミー」が12日、市生涯学習センターいわなびで開かれ、市内外の約15人が油彩やちぎり絵に挑戦した。道教大岩見沢校の二種純子教授と研究室の学生が講師を担任し、昨年以降2回、今年9月26日に開講し、11月9日まで全10回で、水彩やクレヨンなどさまざまな画材の表現方法を学ぶ。2回目は、ちぎり絵の油で塗った絵の具を筆やこてでキャンパスに塗り、油彩の美的な技法や、ちぎり絵の貼り付けのやり方などを学んだ。

岩見沢の音響音楽美さんは手話通訳を交えて教わり、油彩で飛び跳ねるルカを描いた。音響さんは「ルカが大げさなので挑戦してみたけど、上手に描けたかな。次は違う表現も試したい」と話した。

作品同校敷地内の森の岩ギャラリーで12月17日に展示する。(渡辺拓也)

©北海道新聞社

障害者に絵の楽しさ伝えたい

【岩見沢】統合失調症を患いながら青森県で創作活動を続ける画家、今恵美子さん(43)を招いたワークショップが市内で開かれた。東北の公募展で入賞経験のある今さんは、障害のある市民らに絵を描くことの楽しさを伝えた。

絵画を学ぶ市主催の「いわみざわアートアカデミー」の一環で9日に開催された。「作品で思いを伝えよう」をテーマに、今さんと12人の参加者は、頭の中で思いついたものを大きな厚紙に絵の具やポスターカラーで自由に描いていった。

7年ほど前から人間と自然が

岩見沢 青森の画家・今さん指導

テーマの作品を描き続ける今さんは、絵筆を使って即興でカラフルな抽象画作品を描いた後、参加者の描く様子を見て回りながら「勢いがあるって良いですね」「色使いがきれい」などと声を掛けた。

ワークショップは、今さんの個展が岩見沢アール・ブリュットギャラリー(4西3)で開かれているのに合わせて実施。今さんは「ワークショップや自分の作品展を通して、障害のある人がアートに挑戦するきっかけになればうれしい」と話した。個展は12月13日まで開催中。(渡辺拓也)



「線や曲線が面白く描けている」と参加者に声をかける今恵美子さん(右)

©北海道新聞社

アートアカデミー 参加者展覧会

森の岩ギャラリー

【開催日時】12月17日(土)10時～17時

【会場】森の岩ギャラリー(道教大岩見沢校敷地内)

【参加費】無料

【問い合わせ】市福祉課 電話0126・23・4111



花や動物愛らしく

岩見沢で障害者のアート展

【岩見沢】障害のある人が絵画の表現方法を学ぶ市主催の「いわみざわアートアカデミー」の受講生の作品展が1日、道教大岩見沢校(森の岩)敷地内の森の岩ギャラリーで始まった。自由な発想で描かれた110点が来場者の目を惹きつけている。

障害のある人や、講師を務めた同校の学生ら26人が全4回の講座で描いた作品の中から、水彩や油彩などの色とりどりの作品を展示。愛らしいタッチの花や動物をはじめ、強風が吹く様子を大胆に描いた抽象画など、多彩な作品が並ぶ。

会場では、統合失調症を患いながら青森県で創作活動を続ける画家・今恵美子さんを招いた講座での作品も展示している。市福祉課の担当者は「作品を通じて、参加者は、作品を描く喜びを感じてもらえればうれしい」と話した。

7日まで。入場無料。午前10時～午後4時(最終日は正午まで)。問い合わせは市福祉課、電話0126・35・4112へ。(渡辺拓也)

岩見沢 南空知

▷地域の情報、ニュースをお寄せください

岩見沢総局
岩見沢市4条西1-2-5
MY岩見沢ビル5階
0126・22・0120
FAX23・8602
Eメール iwamiz@hokkaido-np.co.jp

乗山支局 0123・72・0034 乗山町中央3-322
夕張支局 0123・52・2201 夕張市本町5-17
滝川支局 0125・24・7145 滝川市明神町3-2-26
芦別支局 0124・22・3116 芦別市北1東2-7
深川支局 0164・22・2838 深川市5条15-1

とくち内科 胃腸科・呼吸器科
得地史郎 得地令郎
岩見沢市3条駅前通り
☎23-1515

岩見沢 まち人

道教大岩見沢校美術文化専攻の3年生。障害のある人たちに絵画教室を主催する。いわみざわアートアカデミーで講師を担当している。「参加者は自由発想で絵を描くのが好き」と話す。

加藤 璃音さん(21)

今回の講座では、油彩に初挑戦する参加者も。表現の幅が広がっている。来年の講座で、絵を描く楽しさを感じてもらえればうれしい。(渡辺拓也)

©北海道新聞社



田中 健太「ハート&アート2021」 出展作品(部分)

受講料 無料
定員20名

障害のある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと芸術鑑賞、創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

創作体験・創作学習会

全4回 (9/28・10/12・10/26・11/9)
会場 岩見沢市生涯学習センターいわなび (岩見沢市4条西1丁目3-4)
時間 13:30~16:30

作品展示会

期間 12/1 (木) ~12/7 (水)
会場 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」 (岩見沢市緑が丘2丁目34 大学構内)
時間 10:00~16:00 (最終日12:00まで)

主催：岩見沢市

令和4年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

I 創作体験・創作学習会

北海道教育大学岩見沢校の学生と一緒に、様々な画材の使用方法について学びます。また、実際に画材を使って制作を体験します。

講師：北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室
会場：岩見沢市生涯学習センターいわなび 2階研修室5・6
時間：13:30~16:30

講義&体験

全4回

- ① 9/28 (水) さまざまな画材にふれる
- ② 10/12 (水) 創作の多様性を体験する
- ③ 10/26 (水) 表現を深める
- ④ 11/9 (水) 作品で想いを伝え合う

2 作品展示会

鑑賞

アートアカデミーで受講生が制作した作品の展示会を行います。

会場：北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」
期間：12/1 (木) ~12/7 (水)
10:00~16:00※最終日12:00まで

申込方法

参加申込書に必要事項を記入のうえ、下記提出先への直接提出またはFAXでご提出ください。メールで申込する場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛てにお送りください。

申込書提出先：岩見沢市役所1階 福祉課 14番窓口
Eメール：fukushi@i-hamomasu.jp FAX：0126-24-0294
申込期日 令和4年9月21日(水)

【問合先】岩見沢市役所健康福祉部福祉課(担当：山田・久保) ☎0126-35-4112(直通)

いわみざわアートアカデミー参加申込書

ふりがな	氏名
住所	〒
電話番号	自宅： 携帯：
FAX	X
メールアドレス	
事前確認事項	①参加する際に必要とするサポートがあれば <input checked="" type="checkbox"/> をつけてください。 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> その他() ②油彩体験を希望する場合は <input checked="" type="checkbox"/> をつけてください。 <input type="checkbox"/> 希望する

令和5年3月10日

令和4年度文部科学省
「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

アートアカデミーの開催による障がい者の生涯学習推進事業 成果報告書

発行 岩見沢市健康福祉部福祉課
〒068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
電話 0126-23-4111 FAX 0126-24-0294
E-mail fukushi@i-hamanasu.jp

